

『良知のこころに生きる』をテーマに

藤樹先生生誕400年祭



本年3月7日は、江戸時代から「近江聖人」と仰がれた藤樹先生の生誕400年を迎える日です。
 「藤樹先生生誕400年祭」は、その3月7日の生誕日から、9月28日までの約7か月間を会期とし、主催事業（シンボル事業）と協賛事業から構成します。とりわけ、協賛事業は市民や団体が自ら企画し実行していくもので、それによって多くの市民参加が期待できます。今回の生誕400年祝祭事業のねらいは、藤樹先生の説いた「良知の心」を市民に広く啓発していくとともに全国発信によって、道徳性の高い健全な社会の形成に寄与することにあります。

おもな記念事業

生誕祭 ※オープニング

(3月7日 藤樹の里文化芸術会館)
 午前は映画「近江聖人中江藤樹」の上映、午後は生誕式（儒式の祭典と孝経拝誦）、鍵山秀三郎氏（日本を美しくする会相談役）による記念講演、西川茉莉奈さんのバイオリン演奏など。3月6日に前夜祭。

ふれあいウォーク

(4月6日、20日、5月18日、6月1日、15日)
 安曇川駅から徒歩で藤樹史跡を訪ねる。記念館で映画「近江聖人中江藤樹」の鑑賞、藤樹書院で孝経の素読。要参加費。

常省祭 (7月23日 藤樹書院)

藤樹市民劇

(9月中旬 藤樹の里文化芸術会館)

藤樹祭 (9月25日 藤樹書院)

嬰鳴フォーラムin高島

(9月27日、28日 会場未定)
 ※エンディング
 歴史上の偉人・哲学者等を生んだ全国13の地域の市長サミット、藤樹ゆかりの地サミット、特別講演会、現地研修会など。参加市民の募集を行います。

講演「(仮)近江聖人中江藤樹」

(5月 安曇川公民館ふじのきホールほか市内2か所)
 女流講師旭堂小三氏による中江藤樹物語。要入場料。

中江藤樹生誕400年祭東京大会

(6月28日 東京新宿・日本青年館)
 映画「近江聖人中江藤樹」の上映、童門冬二氏らによるシンポジウム、東京方面在住者との交流会など。

協賛事業

- 藤樹先生自筆「孝経碑」の建立……………(3月)
- 第3回高島市文化協会文化祭……………(3月)
- 藤樹書院講座……………(3~9月)
- 中江藤樹先生の取り上げられた旧教科書展……………(3~9月)
- 中江藤樹先生に関する写真パネル展……………(3~9月)
- 藤樹の里ふじの盆栽展(4~5月)
- 藤樹杯・高島市軟式野球ナイターリーグ戦……………(4~9月)
- 藤樹先生生誕400年祭俳句大会……………(5月5日)
- 2008年びわ湖国際フルートコンクール……………(5月)
- PTAこころの研修会……………(5月)
- 滋賀県銃剣道選手権大会……………(5月)
- 映画「近江聖人中江藤樹」テーマ曲コンサート……………(5月)
- 大洲スケッチの旅……………(6月)
- 第4回高島市剣道連盟少年剣道練成大会……………(6月)
- 冊子「藤樹書院の文化財」の出版……………(7月)
- OBC主催・少年野球大会(8月)
- 高校女子ソフトボール競技・びわ湖杯争奪新人練習会(8月)
- 中江藤樹・心のセミナー……………(8月)
- 園児・児童教材用紙芝居の制作……………(8月)
- 奉納謡会……………(9月25日)
- 高島大洲書道交流展……………(9月)
- 小学生のための講座「中江藤樹のまちをたずねて」……………(9月)

※これらの「記念事業」「協賛事業」の詳細については、広報誌や高島市ホームページでお知らせします。

(予定)

記念講座のご案内

わが国陽明学研究の第一人者の吉田公平教授（東洋大学文学部）は、このほど1千頁におよぶ『中江藤樹心学派全集』を出版されました。その中で、中江藤樹の高弟、^{ひろこうざん} 瀧岡山およびその門流たちが残した心学について、その全貌が明らかにされました。出版を記念して講座を開催しますので、ふるってご参加ください。



日時・内容

- 1月19日(土)
 - 第1講：王陽明（13時30分～15時）
 - 第2講：中江藤樹（15時15分～17時）
- 1月20日(日)
 - 第3講：瀧岡山とその門流たち（9時～11時50分）

- 場 所 安曇川ふれあいセンター（安曇川公民館）
- 定 員 100人（先着順）
- 受 講 料 3,000円（当日受付時）
- 申込方法 1月10日までに藤樹先生生誕400年祭実行委員会事務局へ電話またはFAXで

藤樹先生生誕400年祭実行委員会事務局（安曇川支所内）
 ☎(32)1131 ☎(32)3072

各界の名士が絶賛する藤樹先生

思想家内村鑑三氏の著書から

なにものも恐れずに独立不羈の人であった藤樹だったが、その倫理体系の中でなによりも注目すべきなのは、謙讓の徳を最高位に置いたことである。藤樹にとって謙讓の徳とは、すべての源となる根源的な徳であり、謙讓の徳がない人間ならば、すべてを欠いているとおなじだった。（『代表的日本人』）

作家童門冬二氏の著書から

近江聖人といわれた中江藤樹は、「孝は自分の親に対してだけではない。隣家にも、地域にも、そして国家にもこれを及ぼすべきだ」と主張した。そうなることと孝というのは単に親孝行という意味だけではなく、「社会に対する真心の実行」ということになる。（『地域めぐり』）

東洋大学教授吉田公平氏の著書から

中江藤樹もまた、はじめは朱子学を熱烈に信奉しながらも、その格套に懊悩する中で王龍溪・王陽明の著作に触発されて格套より解放され、晩年の所謂藤樹学を形成することとなる。（『日本における陽明学』）

なる。王陽明・中江藤樹の両者は、朱子学受容の挫折体験の内実・朱子学からの離脱の契機などは等質のものではないものの、朱子学者として出発して、激しく揺れながら自己否定を重ねて思想形成した点は同案である。（『日本における陽明学』）

